



# 文化財ニュース いわき

第 74 号

平成 26 年 9 月 17 日

(公財)いわき市教育文化事業団

福島県いわき市常磐藤原町手這50-1  
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (43) 0391

## 平成25年度発掘速報展

いわき市内には、現在まで約1,400箇所の遺跡が確認されています。遺跡は、地下に埋まっていることから埋蔵文化財といわれます。先人から代々受け継がれてきたこれらの遺跡を、現在に生きる私たちもまた、現状のままで後世に引き継いで行かなければなりません。しかし、開発行為などによって、現状のままで保存することが困難となった遺跡は、試掘調査や本発掘調査が行われ、記録保存というかたちで後世へと引き継がれていくことになります。

発掘速報展は、市内で行われた本発掘調査や試掘調査及び整理・報告書作成作業の成果をいち早く公開・展示することにより、市民の皆様には最新のいわきの歴史に触れていただくことを目的としています。

平成25年度発掘速報展では、前上ノ山遺跡・久之浜条里跡・小原遺跡・御前田B遺跡・専称寺境域などの調査成果を報告します。



専称寺境域（本堂）調査風景



遺物包含層土層堆積状況（前上ノ山遺跡）



炉跡遺物出土状況（前上ノ山遺跡）



調査区全景（久之浜条里跡）



掘立柱建物跡（久之浜条里跡）

#### ◆前上ノ山遺跡（まえうえのやまいせき）

久之浜市街地南側の太平洋を見下ろす丘陵上に所在しています。今回の調査は久之浜バイパス建設に伴うもので、丘陵中段の斜面に形成された小谷部（E地点）及び斜面中段の小平場（F地点）を対象として行われました。

調査の結果、E地点では遺物包含層1箇所、木炭焼成遺構（炭窯跡）を含む土坑5基、炉跡1基と、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・羽口・鉄滓などが、F地点からは遺物包含層1箇所、溝跡1条と、弥生土器・土師器などが検出されました。遺構は少ないものの遺物の出土量が多いことから、付近には同時期の集落跡や製鉄に関連する生産遺跡の存在が想定されています。

#### ◆久之浜条里跡（ひさのはまじょうりあと）

今回の調査は、震災復興土地地区画整理事業に伴うもので、久之浜第一小学校の南側に広がる低地を対象として行われました。

調査の結果、竪穴住居跡4棟、掘立柱建物跡4棟、柱穴300個以上、水田跡などが検出されました。竪穴住居跡や遺物包含層から、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器などが出土しています。竪穴住居跡は古墳時代頃、掘立柱建物跡は13世紀前後の鎌倉時代前期に位置づけられます。

古代の「条里制」と直接関係する遺構はありませんでしたが、古墳時代～中世にかけての生活の痕跡を確認できました。特に、掘立柱建物跡などの鎌倉時代の遺構や遺物は、大変貴重な成果となりました。

### ◆小原遺跡（こばらいせき）

岩間町字小原の鮫川左岸の段丘上に所在しています。今回の調査は、震災復興土地区画整理事業に伴うもので、台地の平坦部を対象として行われました。

調査の結果、竪穴住居跡2棟、土坑38基、焼成遺構5基、溝跡4条、ピット26個、陥し穴1基などと、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器・石製品などが検出されました。竪穴住居跡及び土坑の一部や焼成遺構は、縄文時代早期の終わり頃のものです。

また、弥生時代後期前葉の土器や、栃木県高原山産の黒曜石を用いた石鏃も出土しています。



調査区全景（小原遺跡）



竪穴住居跡（小原遺跡）

### ◆専称寺境域（せんしょうじきょういき）

平山崎の夏井川右岸の丘陵先端部に所在しています。専称寺は本堂・庫裏・総門の3棟が国指定重要文化財（建造物）に指定されています。今回の調査は、東日本大震災復旧事業の解体修復工事に伴うもので、総門と本堂を対象として行われました。

調査の結果、総門からは礎石やかつら石、雨落ち溝などが検出されました。本堂からは、現在の面より1 m以上厚い盛土層の下から古い礎石や礎石の抜き取り痕、土器や陶磁器の集中する地点などが検出され、中・近世陶磁器やかわらけ・銭貨が出土しました。

火災の跡から出土した陶磁器や土層の堆積状況から、現在の本堂が江戸時代中期に再建されたことがわかりました。



本堂の礎石検出状況（専称寺境域）



本堂の調査状況（専称寺境域）

とじておきましょう。



神谷作古墳群101号墳埴輪出土状況



酒井酒井原遺跡竪穴住居跡完掘状況



白岩堀ノ内館跡の試掘の様子

#### ◆平成25年度に実施された試掘調査

平成25年度は、19遺跡の試掘調査が行われました。

東日本大震災復興交付金事業では、工場建設に伴う原前遺跡、個人住宅建設に伴う大畑B遺跡と神谷作古墳群101号墳の3遺跡の調査を行いました。神谷作古墳群101号墳は国の重要文化財に指定された男子胡坐像などの埴輪が出土していますが、今回の調査で埴形と周溝を確認することができ、大きな成果を上げることができました。

市内遺跡試掘調査業務では、16遺跡の調査を行いました。太陽光発電施設建設に伴う須賀蛭C遺跡、集合住宅及び個人住宅建設に伴う御前田E遺跡・竜ヶ崎遺跡・酒井酒井原遺跡・須賀蛭A遺跡・関根遺跡、特別養護老人ホーム応急仮設施設建設に伴う荒田目条里跡、いわき市立総合磐城共立病院建設に伴う久世原館跡、公民館復旧及び市道改良に伴う後田遺跡・後田古墳群、学校建設に伴う御宝殿遺跡、携帯電話無線基地建設に伴う後田町堀ノ内遺跡、また、国道6号久之浜バイパス建設に伴う久之浜バイパスF地点、民間開発に伴う磐出館跡・白岩堀ノ内館跡の試掘調査もありました。

#### ◆平成25年度に刊行された報告書

『烏内横穴群』・『湯長谷館跡』・『静遺跡』・『薄磯地区』など、7冊を刊行しました。『薄磯地区』には、薄磯貝塚から出土した縄文時代晩期から弥生時代中期の土器や石器、多量の動物骨、平安時代の製塩土器などの分析が報告されています。



烏内横穴群の報告書作成作業の様子